

地方創生拠点整備交付金事業 (R4年度分) の効果検証結果 (各交付対象事業の重要業績評価指標 (KPI) の実績値)

No	① 事業名	② 実績額 (円) (交付金充当額)	③ 事業概要	④ 本事業における重要業績評価指標 (KPI)			⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		
				指標	指標値 (累計値) ※令和3年度終了時点	単位	実績値 (増分) ※令和4年度終了時点	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
1	「改良型みやざき地頭鶏」種鶏増殖施設整備事業	85,763,834 (42,881,917)	みやざき地頭鶏種鶏増殖施設を整備し、改良型みやざき地頭鶏の増殖により生産拡大に取り組む。	指標①	種鶏供給開始に伴う事業協の収入増加額	16,463	千円	8,090	効果の有無はまだわからない	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	食料やエネルギー等の安定確保が国際的課題となる中、G7宮崎農業大臣会合による「宮崎アクション」を踏まえた持続可能な農林水産業への転換に向けて、担い手の確保・育成、先端技術等を活用した生産性向上・省力化、環境に配慮した生産システムの構築などが求められる。	事業を改善	種鶏の供給を継続し、効果検証を進めながら、自立化に向け関係機関と検討を進めて行く。
				指標②	生産農家のコスト削減額	0	千円	0					
2	サーフスポット機能向上施設整備事業	62,726,457 (31,363,228)	シャワー室や更衣室等を備えた宮崎県木崎浜サーフセンターの建設。	指標①	有料シャワーの売上	0	千円	509	効果の有無はまだわからない	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	新型コロナの影響もあり、指標の達成は必ずしも良好とは言えないものの、アフターコロナを見据えた取組が進められてきたところであり、各種スポーツ施設整備の推進などによる成果が5類移行(令和5年度)後、着実に現れている。今後は、本県の強みを生かした観光分野の再生を加速させるとともに、スポーツ・文化分野についても、更なる環境整備や魅力発信につなげる必要がある。	事業を継続	引き続き、施設運営に必要な収入を安定的に確保し、本県の代表的サーフスポットである木崎浜の魅力向上及び施設PRに努める。
3	屋外型トレーニングセンター整備事業	861,365,221 (1,722,730,443)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを柱とした本県観光の振興・経済の活性化を図ることを目的に、県が主体となり、ラグビー、サッカー、陸上、トライアスロン等のトップアスリート等の合宿拠点として活用できる「屋外型トレーニングセンター」を整備する。</li> <li>・また、本施設では、スポーツにおけるICT活用の推進を図ることとしており、キャンプチームの戦術確認のほか、公開練習、大会等で県民やファンに対する映像配信などで利用可能なAIカメラの整備やWi-Fiの導入を行う。</li> <li>・デジタル技術の活用により、施設利用者(する人)や観覧者(みる人)の利便性を高め、本施設の情報発信を効果的に行うことで、施設の利活用、集客につなげる。</li> </ul>	指標①	スポーツキャンプ・合宿、大会等での観客動員数	-	人	0	効果の有無はまだ分らない	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	R4年度は、整備中であり、本施設の効果は得られていない。一方で、「スポーツ観光」全般については、新型コロナの影響もあり、指標の達成は必ずしも良好とは言えないものの、アフターコロナを見据えた取組が進められてきたところであり、各種スポーツ施設整備の推進などによる成果が5類移行(R5年度)後、着実に現れている。R5年度から屋外型トレーニングセンターが供用開始したことから、本施設の効果とともに、今後は、本県の強みを生かした観光分野の再生を加速させ、スポーツ・文化分野についても、更なる環境整備や魅力発信につなげる必要がある。	事業を継続	屋外型トレセン等を活用したスポーツ大会・合宿等の積極的な誘致を図ることにより、全県化・通年化・多様化に取り組む。
				指標②	スポーツキャンプ・合宿、大会等での延利用者数	-	人	0					
				指標③	スポーツキャンプ・合宿、大会等と併せて実施する県産品等販売機会の新規創出件数	-	件	0					